

# 園長だより NO73

新型コロナのオミクロン株がとても急速に感染を広げています。ほっと一息入れることもなく毎日が気が気でない状態になっています。継続している感染対策を続けていくことが唯一、感染から身を守るすべなのか、

元気な子ども達の声が響き渡る保育園と一歩外に出た世界とのギャップに困惑しながらもできることをなんとかやっていくしかないと思いが強くなります。

今年度もあと2か月余り、それぞれの子ども達の成長を実感する場面が顕著にあります。ひとりひとりの成長と仲間との成長、個と集団の織り成す生活が子ども達の「育ちのアンテナ」に大きな影響や刺激を与えています。

## 表現 — 劇あそびから

今、3・4歳児が劇に取り組んでいます。主に遊戯性(あそび)を中心に据えているものです。大好きなお話をもとに遊んでいます。繰り返し読んでもらったお話を実際に演じてみる。ここでは役者のようにすばらしい演技と喝采されるようなものでなく。お話の印象的な場面をそれぞれが感じたことを動きやしぐさ、言葉にして表し友達や大人と一緒に楽しんでいくものです。

特に3歳児は大人(保育者)と一緒にお話を再現していくことに楽しさを感じる要素のひとつになります。年齢特有な育ちからひとりひとりがうーんと楽しむことが目的の大元ありますがみんなと一緒に、先生と一緒に遊ぶということが遊びをより楽しくなり継続して取り組んでいけることに繋がっています。

大人側の意図した劇の「押し売り」はしません。「こうしなさい こうやりなさい」と言うこともありません。それぞれが感じたこと、思っていることを大人が感じ、適正な環境(あそべる場所、空間)をさりげなく作っています。

遊びの中では絵本に登場するものになりきり、その登場するものの心情も子どもながらに読み取り、遊びに繋げていく場面もあります。

教え込まれ、統率が取れているような大人主導のものでなく、あくまでも楽しむことを追求したいと願いながら取り組んでいます。

遊び込んでいくと「あの場面の〇〇はどんな思いでいるのかな」「あの場面の情景はどうなんだろう」と不思議に発見や思いが湧き出てくるものです。

シナリオ(台詞)が予めできているものを教え込んで(指導して)お覚えさせていくものとは異なり感情、情緒の微妙な揺れ(揺さぶり)が起こり、感じたものを表に出したい(伝えたい)という感情が出てきます

それぞれの育ちは異なるため、決められた演技方を教えるのではなく、ひとり、ひとりが感じたことを大人は汲み取ってあげようとする気持ちを持ち続けながら子ども達と関り、遊んでいくことが望まれます。マニュアルがあるものとは違い、感じる気持ち、子ども達をわかろうとする心がなければ遊びはより楽しくなりません。



大好きな絵本の一場面です。大きなヤギが やまに草を食べに行く途中の橋で「トロル」と遭遇する場面です。



3匹のやぎのがらがらどんよりやってきたのは おおきなやぎのがらがらどんがたん・ごとん がたん・ごとん 「おれのはしをがたびしさせるやつは」とトロルはどなります。

この1場面は緊張と不安 これから先の展開への期待と わくわく、どきどきの場面です。ここで仮に10人の子ども達が絵本の読み聞かせてもらっていたなら10人それぞれの感じ方があります。悠長に話し自分の感じたことを言葉で伝えられる子、言葉よりもヤギの強さやトロルの怖さを身体の動きで表す子、息をのんでじっとしている子もいます。思いは言葉や身体の動きで表現することではありません。言葉にならない言葉を身体の中に同居させている子どももいます。

大人も遊びながら、子ども達と一緒に演じて、表現していくことで、それぞれの感情を理解できる距離にいられるのです。



※劇の活動を通じて 描く、つくる等の表現活動も生まれる

劇といえば昔から発表会、遊戯会という行事の中で華やかに盛大に行われていました。

※今も昔ながら華やかな衣装を身にまとい盛大に行われている園も多くあることでしょう

でも、子どもの育ちを丁寧にみてあげる事がだいぶ削がれていました。そんな取り組みをみて、劇やお話をもとに遊ぶことに何を求めているのか私には理解ができないことがありました。

## 子ども主体をつくるには

子どもの表現って何だろう。 劇の活動で何を大人が求めているのか? 活動を通じてどんな子ども(達)になってもらいたいのだろうか? 決まりきった回答ではなく、目の前の子ども



達をよーくみて、感じて、それぞれの思いに自分の思いを丁寧に重ね合わせ、子どもがやりたい、やってみたいと思う内容を実現させてあげる。計画もひそかに(緻密に)考えて、子ども達の要求に添えるようにしていきたいものです。

ただ、子ども達に任せきりではない、状況に応じて適切に対応、応答的に心情を理解していくことで子ども達の活動(自分たちのフィールド)を充実させることに繋がるとしています。

10人いれば10人の楽しさがある。その楽しさのいろいろをわかる大人でいたいものです

(園長 廣部 信隆)